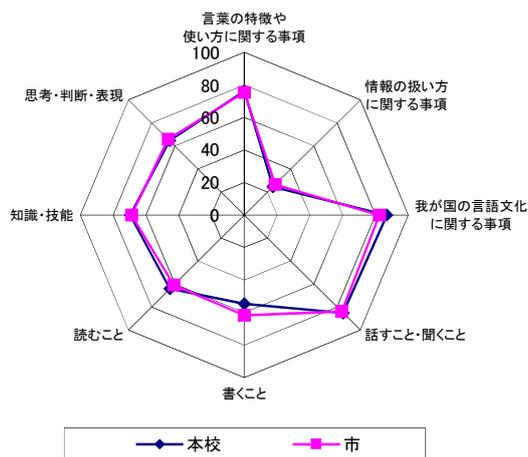


宇都宮市立清原南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.2	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	24.6	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	86.9	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	85.2	83.9	84.2
	書くこと	54.6	61.7	64.5
	読むこと	64.2	60.9	61.0
観点別	知識・技能	69.6	68.8	70.3
	思考・判断・表現	64.6	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

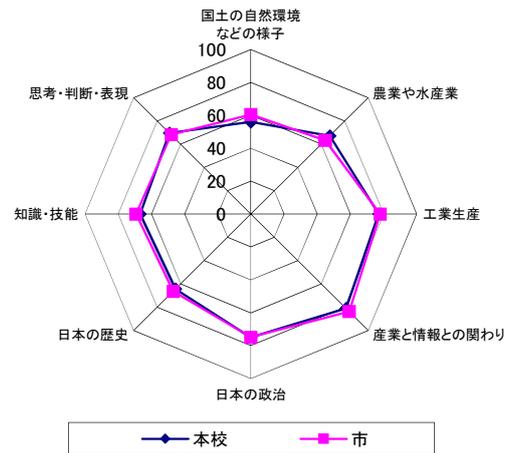
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	<p>○平均正答率は76.2%で、市の平均正答率より0.9ポイント上回っている。</p> <p>○漢字の読み書きの問題は概ね定着している。</p> <p>○敬語を正しく使う問題では、平均正答率が67.2%で、市の平均正答率より15.2ポイント上回っており、概ね理解できている。</p> <p>●文と文との接続の理解が不十分である。</p>	<p>・基礎基本の定着のため、確認テストの実施やAIDリルの有効活用を進め、繰り返し練習して習熟を図る。</p> <p>・国語の授業だけでなく、漢字を使うように指導するとともに、文と文との接続の関係を意識して話したり書いたりできるようにする。</p> <p>・日常生活の中で敬語を使うなど、時と場に応じた適切な言葉遣いを身に付けさせていく。</p> <p>・漢字の学習の際に、音訓読みや熟語を意識して指導するようにする。</p>
情報の扱い方 に関する事項	<p>●平均正答率は24.6%と市の平均正答率より1.9ポイント下回っている。</p> <p>○説明文の文章に含まれている情報と情報との関係を捉え、内容を整理して考えることができています。</p> <p>●話や文章に含まれている情報を取り出して整理し、文章を書くことには課題が見られる。</p>	<p>・図書や新聞資料などを活用し、様々な情報の中から、原因と結果などの関係を捉える活動を引き続き行っていく。</p> <p>・一人一台端末や図書資料・新聞等を活用して情報を収集し、分かりやすく明確にしながらまとめる活動を通して、自分の考えを伝える力を高めていく。</p>
我が国の言語文化 に関する事項	<p>○平均正答率は86.9%と市の平均正答率より4.5ポイント上回っている。</p> <p>○和語・漢語・外来語の区別については、概ね理解できている。</p>	<p>・親しみやすい古文や漢文の文章を音読するなどして、独特なリズムや語調を実感できるようにする。</p> <p>・国語辞典や漢字辞典などを活用し、語彙・語句、語源に興味をもたせる。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は85.2%と市の平均正答率より1.3ポイント上回っている。</p> <p>○自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を聞き取る問題では、平均正答率が83.7%で、市の平均正答率より4.7ポイント上回っている。</p>	<p>・内容を整理して聞く力や、聞いたことを基に質問を工夫しながら話す力を高められるようなやりとりの場を意図的に設ける。</p> <p>・役割や立場を明確にし、インタビューするときの目的や意図に応じた話し方のポイントを具体的に示す。</p>
書くこと	<p>●平均正答率は54.6%と市の平均正答率より7.1ポイント低い。</p> <p>●情報と情報との関係に着目したり、指定された文字数や段落構成にしたりして書くことに、課題が見られる。</p>	<p>・目的や意図に応じて、自分の感じたことや考えたことを、文字数等の指定に合わせて書くという活動を意図的に設定する。</p> <p>・簡単に書いたり詳しく書いたり、事実と感想、意見とを区別して引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く活動を充実させる。</p> <p>・記述した文章を読み返し、構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えられるように指導するとともに、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見つけるようにする。</p>
読むこと	<p>○平均正答率は64.2%と市の平均正答率より3.3ポイント上回っている。</p> <p>○登場人物の心情や様子について、描写を基に捉えることについては、概ね理解できている。</p> <p>○文章全体の構成を捉えたり、叙述を基に文章の内容を捉えたりすることについても、概ね理解できている。</p>	<p>・文章全体から、構成や状況を捉えて、正しく読み取る力を身に付けさせるために、根拠となる言葉を見つける活動を取り入れる。</p> <p>・引き続き読書活動を充実させ、様々な分野の本を読む機会を増やしていくことで、多様な考えをもてるようにする。</p> <p>・意見や感想を共有する場を設け、共通点や相違点などを捉えながら自分の考えを広げられるようにする。</p>

宇都宮市立清原南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	56.1	60.5	65.8
	農業や水産業	67.2	63.3	66.0
	工業生産	77.0	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	81.1	83.8	76.6
	日本の政治	75.0	74.9	74.1
	日本の歴史	64.3	66.3	68.3
観点別	知識・技能	66.8	69.3	71.4
	思考・判断・表現	69.6	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

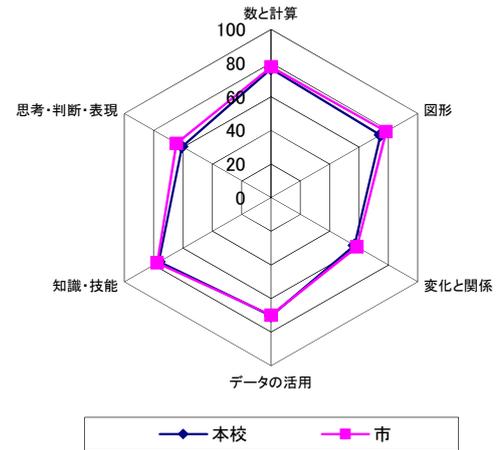
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は56.1%で、市の平均正答率より5.4ポイント下回っている。 ●日本の周辺の海洋名についての問題では、平均正答率が60.7%で、市の平均正答率よりも14ポイント下回っている。 ●公害についての問題では、平均正答率が21.3%で、市の平均正答率よりも4.8ポイント下回っている。資料から読み取った情報の処理の仕方に課題が見られた。 	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日本周辺の国々の位置や海洋名などを正しく理解できるよう、世界地図などの資料を効果的に活用していく。 ●衛星写真や地図帳、写真などの資料を効果的に活用し、地形や国土の様子を具体的に捉えられるよう工夫するとともに、我が国の国土の自然環境と国民生活についても正しく理解できるように指導していく。 ●公害についての知識を深めるために、図書資料や画像資料等を使い、指導していく。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は67.2%で、市の平均正答率よりも3.9ポイント上回っている。 ○輸入などの外国との関わりにおける課題についての問題では、平均正答率は73.8%で、市の平均正答率よりも6.6ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の食料生産に関する資料の読み取りと、農業における課題を関連して考察できるよう引き続き指導していく。 ●算数や理科など他教科との横断的な学習を意識しながら、グラフなどの資料を読み取る機会を継続して指導する。 ●日本の食料生産に関する知識を高め、地図と関連づけて理解できるようにしていく。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は77.0%で、市の平均正答率より0.9ポイント下回っている。 ○自動車の部品の再利用する目的についての問題では、平均正答率は91.8%で、市の平均正答率よりも4.9ポイント上回っている。 ●日本の主な輸出品・輸入品についての問題では、平均正答率は52.5%で、市の平均正答率よりも4ポイント下回っている。資料から必要な情報に着目して読み取る力に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●メディアなどの情報を活用しながら、日本と世界とのつながりや貿易について興味関心をもてるように指導していく。 ●日本の主な輸出品や輸出品についての基本的な知識を高め、グラフと関連付けて考えられるように指導する。 ●これからの工業生産の課題と、持続可能な社会の実現を意識した授業を展開していく。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は81.1%で、市の平均正答率より2.7ポイント下回っている。 ○情報の発信と受信の注意点についての問題では、平均正答率が93.4%で、市の平均正答率とほぼ同等である。情報リテラシーについての意識が高まっている。 ●産業における情報活用の現状についての問題では、平均正答率は68.9%で、市の平均正答率よりも5.9ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き社会科と情報メディア教育との関連を意識し、インターネットを使用する際の注意点について正しく理解し、効果的に活用できる力を身に付けられるようにする。 ●授業で映像によるニュースや新聞記事などを取り入れ、正しい知識や判断力を養うようにする。 ●産業と情報との関わりについて、情報の活用と私たちの生活を関連付けて考えることができるようにする。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は75.0%で、市の平均正答率とほぼ同等だった。 ○議会政治についての問題では、平均正答率が60.7%で、市の平均正答率よりも7.7ポイント上回っている。 ●租税の役割についての問題では、平均正答率が67.2%で、4.3ポイント下回っている。複数の資料から必要な情報を読み取ることに課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も、国会や地方議会が国民や市民の生活とどのように結びついているか理解できるように、図や文章でまとめられるように指導していく。 ●税金の使われ方に注目することで、国や地方自治体の仕事の大半が税金によってまかなわれていることや、住民の願いを実現するために必要不可欠であることが捉えられるように指導していく。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は64.3%で、市の平均正答率より3ポイント下回っている。 ○豊臣秀吉の業績についての問題では、平均正答率が75.4%と、市の平均正答率より7.8ポイント上回った。 ●鎖国についての問題では、平均正答率が60.7%にとどまり、市の平均正答率より20.6ポイント下回っている。鎖国時の貿易相手国について、十分に理解できていなかったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●動画資料や図書資料を効果的に活用するなどして、単元ごとに学習内容をまとめる機会を設け、知識の定着を図る。 ●歴史上の出来事について自分事として捉えられるようワークシートや発問の工夫をこれからも継続して行っていく。 ●表やグラフなど統計資料から正しく読み取りをすることができるよう指導していく。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	76.8	77.7	78.6
	図形	74.6	78.4	74.4
	変化と関係	56.8	58.7	53.0
	データの活用	70.2	69.9	57.2
観点別	知識・技能	76.4	77.5	74.0
	思考・判断・表現	60.7	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

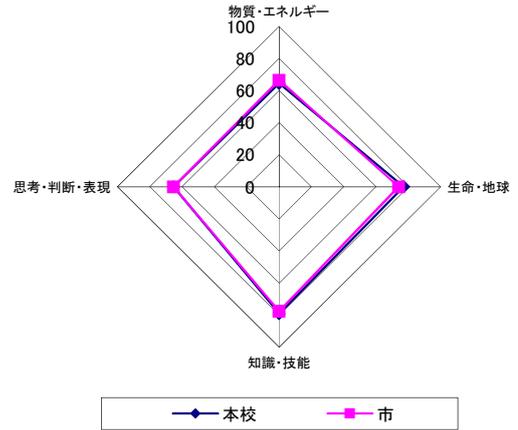
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は76.8%で、市の平均正答率より0.9ポイント下回っている。 ○小数の乗法と除法の計算は、市の平均正答率を上回っており、計算の仕方は概ね定着している。 ●小数の乗法の文章問題では、数直線に表して数量の関係を捉えたり、数直線から立式したりすることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な小数・分数の計算や約分、通分の仕方などが身に付くように、少人数・習熟度別学習を行ったり、スキルアップタイムをしたりするとともに、AIドリル等も活用し、練習問題に繰り返し取り組んだり、個に応じた指導を行ったりして確実な定着を図る。 ・文章問題では、数直線や図を使って考える活動を積極的に取り入れ、問題の内容を正確に捉えたり、立式したりできるように指導していく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は74.6%で、市の平均正答率より3.8ポイント下回っている。 ●2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求める問題では、平均正答率が52.5%で、市の平均正答率より12.3ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を構成する要素に着目し、基本的な図形の性質を正確に捉えられるように指導していく。 ・図形の面積や体積を計算で求めることができるように、繰り返し練習問題に取り組み、公式の定着を図る。 ・線対称な図形と対称の軸との関係や点対称な図形と対称の中心との関係を理解させ、対称な図形の様々な問題の反復練習や演習を行い、定着を図る。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は56.8%で、市の平均正答率より1.9ポイント下回っている。 ●百分率について理解し、割引後の値段を求める問題では、平均正答率は59%で、市の平均正答率より7.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・速さを表す単位が異なるときの比べ方については、時速や分速、秒速の意味をしっかりと押さえ、時間や距離、速さの量感を具体的に捉えられるように、事例を挙げて説明するなどし、速さの感覚を養うようにする。 ・(比較量)÷(基準量)=(割合)などの言葉の式を覚えるだけでなく、数直線や図を描くなどして、数量の関係を捉える活動を多く取り入れる。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は70.2%で、市の平均正答率より0.3ポイント上回っている。 ○ドットプロットから最頻値や中央値を読み取ったり、度数分布表にまとめたりすることについては、概ねできている。 ●平均を求める問題では、平均正答率は59%で、市の平均正答率より7.9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科や総合的な学習の時間等の学習と関連付け、日常生活の中で、必要なデータを集め、観点を決めて整理して、目的に応じてグラフや表の特徴や傾向を考察できるような活動を取り入れる。 ・平均の意味を理解し、表から数値を読み取って正確に計算できるようにする。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.5	66.5	66.3
	生命・地球	77.0	74.0	72.6
観点別	知識・技能	79.1	77.6	78.2
	思考・判断・表現	65.3	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は64.5%で、市の平均正答率より2ポイント下回っている。 ○物が燃えたときの気体の割合の変化について問う問題では、平均正答率が93.4%で、市の平均正答率より5.6ポイント上回っている。 ●電磁石の性質をもとにして回路を改善する方法について考える問題では、平均正答率が47.5%で、市の平均正答率より11.2ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●実験の前に予想を立てる活動は毎回行ったので、予想、実験のめあて、実験という流れは定着した。しかし、予想の根拠が生活経験や既習事項から組み立てたものにならなかったり、お互いの考えを理解し合うための知識が不足していたりした。実験の結果と身の回りの事象を結び付けることを繰り返し行い、知識の定着を図る。 ●具体物を操作し、試行錯誤しながら学習することで、日常生活に応用が利く、生きた知識の習得を図る。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は77%で、市の平均正答率より3ポイント上回っている。 ○植物の茎を縦に切った時の断面の様子について問う問題では、平均正答率が80.3%で、市の平均正答率より17.5ポイント上回っている。 ●太陽と月の位置関係から、月の形の見え方の違いについての考える問題では、平均正答率が73.8%で、市の平均正答率より6.9ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童自身の言葉で予想やまとめができるように、言語活動の時間をしっかりと確保し、論理的な思考力を育てる。 ●理科的な語彙の不足が見られるので、小テスト等で繰り返し問題を解くことで知識を定着させる。 ●画像や動画などの視聴覚教材を、ICT機器を積極的に活用することで、授業中では観察しづらい事象の理解を深める。 ●日常生活と関連付けて考えることで、学習意欲を向上させ、主体的な学びにつなげるために、今後も、体験的な学びを意図的に取り入れ、科学的な思考の定着を図っていく。

宇都宮市立清原南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT等を効果的に活用した学習活動の充実	児童が自らの課題を解決するために、一人一台端末や図書等を活用し、情報を取捨選択したり、発信・共有したりすることで思考を深め、主体的に取り組むことができるように学校全体として取り組んでいる。	一人一台端末の利用などICT機器の活用についての質問に肯定的回答をした児童の割合は、昨年度よりも高くなっている傾向が見られた。しかし、「パソコンを利用してまとめることができる」、「パソコンを利用して相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」や「インターネットを活用するとき、正しいかをよく考えて情報を得ており、また、責任を持って情報を発信している」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が、市の割合を下回っているものが多かった。また、「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の質問に肯定的回答をした児童の割合も、全学年で市の割合を下回った。
児童同士の協働的な学び合いを通じた思考力の向上と教師のコーディネートを意識した授業の展開	根拠を基にした自分の考えをもち、教師のコーディネートによって、児童の考えを深めたり広げたりすることができるような授業の実践を行っている。	「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、市の割合を下回っている学年が多かった。また、「先生や友達の話を、最後まできちんと聞いている」や「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の質問においても、肯定的回答をした児童の割合は、市の割合を下回っている傾向が見られた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国・県・市の調査結果から、「書くこと」において平均正答率が低く、記述問題では無記述も見られた。次年度は、各教科の特質に応じて、思考・表現活動を積極的に取り入れたり、学習のめあてに即した振り返りを児童自身の言葉で論述させたりするなど、書く機会を意図的に設定し、言語活動の充実を図るようにする。

・一人一台端末などのICT等をツールとして活用した学習活動の充実をさらに進める。

・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答の割合が全学年で、市の割合を下回っていた。次年度は、児童の主体的な学びの実現のために、見通しをもち、試行錯誤しながら課題に粘り強く取り組み、自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を付けることができるような授業改善に取り組む。

・友達との聞き合いや伝え合いなど学び合いの場を意図的に設定し、様々な情報や知識を共有するとともに、教師のコーディネート力を高め、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるよう教師が促す「学習の個性化」を図る。

・「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、どの学年も80%よりも高いが、「自分で計画を立てて取り組んでいる」「授業で習ったことをその日のうちに復習している」の質問では、児童の肯定的回答の割合は、市の割合よりも下回っていて、家庭学習への取り組み方には課題が見られた。次年度は、学年の発達段階に応じて、より確かな学力の定着に結び付く学習の内容や、A Iドリルを活用し個に応じた課題などを提示するようにし、家庭と連携しながら、家庭学習の定着に向けた実践に取り組む。